茨木市立　東雲中学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成２８年１０月作成

1　今年度の結果と取り組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①話すこと･聞くこと
概ね良好な結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
該当問題なし

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・語句知識に関しては概ね良好である。特に、表現技法・適切な語句の選択・漢字の読み方などについては、理解できている者が多い。一方、古典の知識については、一部無解答率が高く、正答率の低下につながった。

国語B

（領域ごと）

①話すこと･聞くこと
該当問題なし

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④伝統的言語文化と国語の特質に関する事項
該当問題なし

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・資料を基にして、その内容を読み取る問題に対しては、全国平均に比して、やや力が弱い。

・一方、自分の考えを与えられた条件にのっとって記述する問題に対しては、無解答率が全国平均よりも低く、正答率が全国平均を上回った。

分析

全体の正答率は、概ね良好である。
領域別について、全国平均を全ての領域において上回っている。
問題形式では、A 問題において、短答式より選択式の方が正答率は若干低い。
しかし、B 問題では記述式の正答結果が全国平均を 3 ポイント上回っており、自分の考えを書く力をもっていることがわかる。また、無解答率も全国平均よりも低いことから、じっくりと問題に取り組む姿勢が見える。

○●算数・数学●○

算数・数学A
（領域ごと）
①数と式
概ね良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった

④資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
該当問題なし

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・数と式において、全国平均と比べ、正答率が高かった。
・図形においては、正答率が全国平均より5～10%低いものもあった。
・関数の問の中では無解答率が全国平均よりかなり高いものがあった。

算数・数学B
（領域ごと）
①数と式
概ね良好な結果であった

②図形
大変良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった

④資料の活用
良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・記述式の問題の正答率は、全国平均より 10%高いものもあった。
・資料の活用は平均より高かった。
・図形の正答率は全国平均よりも8～13%高かった。
・図形の合同条件の記述問題では全国平均よりも無解答率が 10%低かった。

分析

A 問題について，「数と式」の領域では全校平均を上回る正答率をあげ、「関数」「資料の活用」の領域では，全体的に全国平均とほぼ同程度の正答率をあげている。「図形」の領域でかなりの、全国平均を下回る正答率となった問題があった。作図の設問では、理解力の弱さがうかがえる。作図の体験不足と推測できる。「図形」領域の角度の計算などは正答率が高かった。

また、「関数」領域では、言葉の意味をしっかりと理解できていないと思える。「変化の割合」などの言葉と求める式が結びついていない。

B 問題については、「図形」領域に関してはA 問題と真逆の傾向が見られ、正答率は全国を上回り、無解答率も下がる。その他の領域ではA と同様の結果となった。

問題形式が記述式の設問で全国平均と比べ正答率が高く、無解答率が低くなっていることがわかる。自分の意見や考えを言葉にし、順序立てて示していく力が少しずつついてきていると思われる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

H26 年から正答率が上昇してきている。特に国語・数学ともにＢ問題の上昇率が大きい。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層・低位層ともに年度によって上昇下降を繰り返しているが、H26 年以降学力高位層が上昇してきており、下位層は下降してきているのはよい傾向である。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み（学力調査の結果を踏まえた国語科と数学科の取り組み）

＜国語科＞

◎漢字の読み書きや古文の歴史的仮名遣いの書き換えなど、基礎となる部分の定着に課題がある。よって小学校時代からの漢字の復習も取り入れつつ、漢字の宿題、小テストなどで基礎の定着を図っていきたい。

◎短答式の問題の正答率向上のため、授業形態を工夫し、授業での発問の答えを文章で書くようにしていきたい。加えて、授業の中で、作文や資料読み取りの指導を進めるとともに、一歩進んで、他の生徒の前で自分の考えを発表させるような形式の授業にも積極的に取り組んでいきたい。コミュニケーション能力が問われている昨今では話し合いや討論の基礎的な手立てなども丁寧に指導していく必要がある。

◎「国語の勉強が好きですか」という質問に対して「あてはまる、どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒が全国平均より下回っていた結果を踏まえ、授業研究、読書指導などに取り組んでいきたい。

＜数学＞

◎授業形態を問わず、身に付けた知識を根拠や意味の理解にまで掘り下げていき、横断的に活用していくことができる知識として発展・定着させていきたい。そのために小テストを各単元で行い、生徒たちの理解をこまめに確認する必要がある。

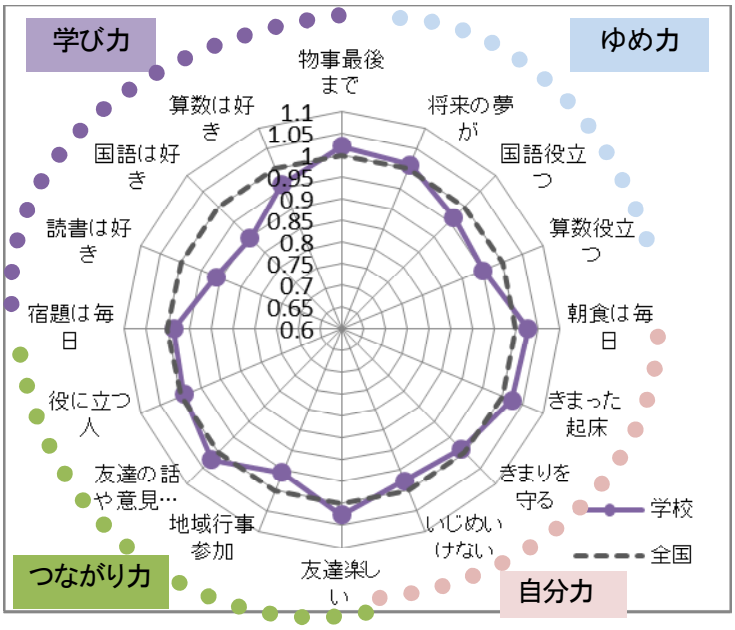
◎知識を伝達するだけの講義型授業ばかりに偏るのではなく、自ら考え課題を解決していく問題解決型の授業も盛り込んでいく。

◎「図形」や「関数」領域では，授業中の活動の少なさ、説明などへの偏りによってグラフの書く手順や、作図の方法などを定着させるまで行きつかないまま進んでしまうことがある。数学的な操作や活動を多く取り入れていくための準備（教材研究）を進めるとともに教科内での交流も積極的に行っていく。合わせて、ＩＣＴ機器の活用により想像力を刺激していくこと、班学習を充実させ生徒間でのコミュニケーションを通して学習活動の練り上げ、この２点から生徒たちの活動、学びにつなげる。

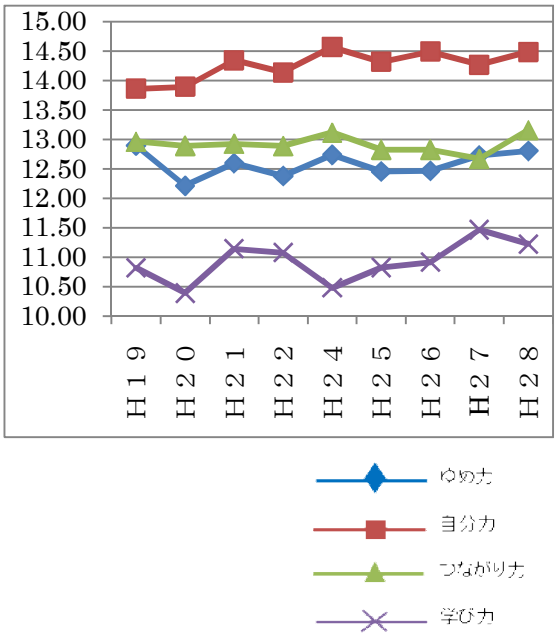
◎また、記述式での無解答率の高さを低くするためには、多様な考え方を身につける必要がある。自分の考えや意見を発表する場を増やしていくこと、相手の考え方の違いを理解しようとする力を授業の振り返りや考察を書く機会を設けていくことで改善していきたい。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

◎【ゆめ力】の「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」の設問では全国平均と同じかやや上回っている。しかし、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問では全国平均より下回る結果となった。

◎【自分力】の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の 2 つにおいては全国平均を上回っており、「学校の規則を守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は全国平均を下回る結果になった。生活習慣は良好であるといえるが、規範意識に関しては今後の検討課題である。

◎【つながり力】の「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の設問は全国平均を上回っており、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は全国値をやや下回る結果となった。

◎【学び力】の「家で学校の宿題をしていますか」「読書は好きですか」「国語の勉強は好きですか」「数学の勉強は好きですか」のすべて設問に対し、全国平均を下回る結果であった。『朝の読書』活動を行っているが、読書が日常生活に根付いていないことがうかがえる。

取り組み

■各教科の授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つという意識づけを行い、学習意欲の向上へつなげていく。

■授業で学習したことを復習する習慣をつけさせる。基礎学力の定着のため、まずは、家でふりかえりをするための教材、まとめをするための教材等を宿題として課すことで、家庭学習の時間を増やしていく。

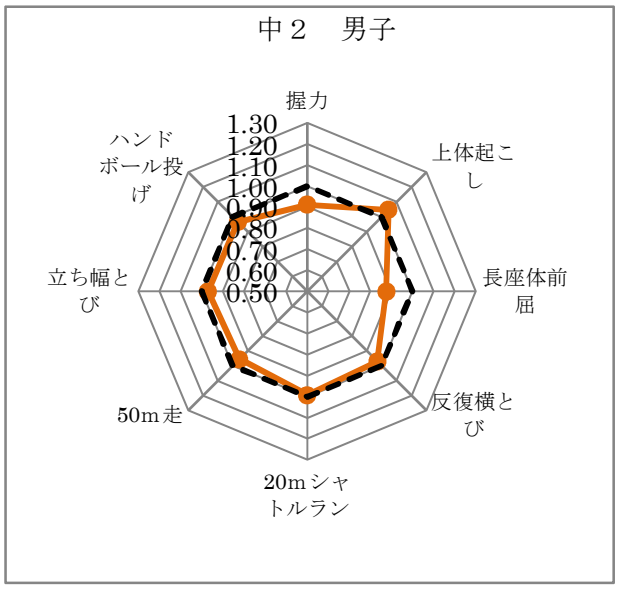
■全教職員が「茨木っ子版　授業スタンダード」・「大阪の授業 STANDARD」の内容を再確認し、それをベースにした「生徒が自ら考え、教え合い、学び合う」授業デザインの構築をすすめていく。

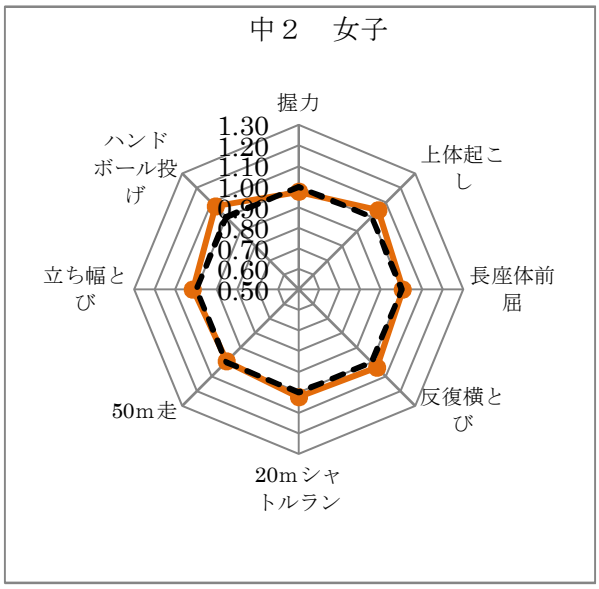
■「総合的な学習の時間」のみならず、各教科の授業で生徒の間で話し合う活動、発表する活動などをふやしていく。

■身の回りで起こっている出来事や地域の行事等に関心をもたせるため、小学校と連携した取り組みを通じて、地域行事への参加を生徒に促していく。

（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○





分析

体育系の部活動に参加している生徒が多いこともあり、授業では生徒が積極的に体力向上に取り組む姿勢がみられた。全国平均値から分析すると、今年度の２年生女子は全体的に全国平均と同等、もしくは数値が上回っている結果となった。男子は上体起こしを除いて全国平均よりも低い数値となった。特に男子の長座体前屈は例年に比べても低い数値である。授業を行う際も体育系の部活に参加している生徒とそうでない生徒との間に格差が広がっているように感じている。今後、数値を上げていく取り組みとして、ランニングや筋力トレーニングを丁寧に行わせ、より多くの生徒が運動時間を確保できるような授業展開・授業での工夫が必要となってくると考える。

取り組み

現在は、体育の授業において、ランニングや筋力トレーニングを毎回取り入れているが、体力・筋力に個人差があり、個々の能力に応じて、一つ一つの筋力トレーニングの回数、丁寧さを改善し、運動部に所属している生徒と所属していない生徒の効率を上げていきたい。

全校体制での体力向上に向けての取り組みは行っていないため、スポーツテストにおける分析を元に、考えていく必要がある。

特に、学校全体の取り組みにおいては、体力向上のため、朝食の指導などの、食育の面からの取り組みを考える必要性がある。

2 3年間の計画

	（各校） 学力向上	体力向上	（ブロック共通） 中学校ブロック連携
目標	教え合い・学び合う集団づくり	教え合い・支え合いで、共に体力向上！	課題を持つ仲間に寄り添い、共に成長できる児童・生徒を育成
平成26年度	・目標に準拠した評価に沿った授業づくり・授業計画の試行。 ・あらゆる授業で自分を表現する機会を増やしていく。 ・「茨木っ子版授業スタンダード」「大阪の授業STANDARD」を再確認し、生徒が自ら考え、教え合い、学び合う授業デザインを構築していく。 ・引き続き、授業規律の確立に取り組む。	・それぞれの単元に対応したトレーニング（準備運動やランニング、筋力トレーニング）を研究し、導入していく。 ・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように働きかけを行う。	①　小中連携担当者の教育内容部会を２ヶ月に１回開催。 ②　連携コーディネーターによる小学校訪問・参観の実施。 ③　学校事務の共同実施を月１回開催。 ④　部活動での連携（中学の陸上部から小学校への練習指導） ⑤　中学校ブロック合同授業研の開催 ・集団づくり小中合同研修会（8/25） ・中学校の英語科研究授業を保幼小中で参観（1/28） ・小学校にて、中学校の授業のようすをビデオで参観。 ・各学校で実施する校内授業研・参観等にお互いに参加し、交流。
平成27年度	・目標に準拠した評価に沿った授業づくり・授業計画の確立。 ・総合の時間だけでなく、さまざまな教科において、自分の考えを発表する授業を行う。 ・授業デザインの確立。 ・授業規律の確立。	・それぞれの単元に対応したトレーニング（準備運動やランニング、筋力トレーニング）を確立していく。 ・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。	①　小中連携担当者の教育内容部会を継続して設置・開催し、本音で話せる関係づくりに努める。 ②　連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ③　学校事務の共同実施。 ④　連携カリキュラムの検討 ・「教室はまちがえるところだ」等の小から中への継続した道徳授業の実施。 ・東小・白川小スタンダード（算数）の共有。 ・茨木っ子運動①②を体育の授業で共有実施。 ・部活動での連携（中学の陸上部から小学校への練習指導） ⑤　中学校ブロック合同授業研を２回開催 ・各学校で実施する校内授業研・参観等にお互いに参加し、交流する。
平成28年度	・目標に準拠した評価の確立。 ・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。 ・授業デザインの確立。 ・授業規律の確立。	・それぞれの単元に対応したトレーニング（準備運動やランニング、筋力トレーニング）を検証していく。 ・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。	①　小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。 ②　連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ③　学校事務の共同実施。 ④　連携カリキュラムの検討 ・小中連携担当者会から、より専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・小学校のしつけ教育を引き継いだ東雲スタンダードの作成。 ・茨木っ子運動①②を体育の授業で共有実施。 ・部活動での連携 ⑤　中学校ブロック合同授業研を各小中１回開催 ・各学校で実施する校内授業研・参観等にお互いに参加し、交流する。